

第7回国際標準化教育研究会資料

韓国における標準学会の設立について

2011年1月14日

一橋大学イノベーション研究センター
江藤学

韓国標準学会設立の背景と経緯

1. 創立背景

「標準」は持続可能な社会のための国家や企業の競争力の確保及び社会統合のための核心要素である。

標準化に関する国家政策及び企業戦略の開発のための深層的な研究及び研究結果の共有・拡散のために専門家交流の場が必要である。

分野別学会及び研究機関により個別的に遂行されてきた標準研究を融合し、相互疎通できる統合的な学術組織が必要である。

※ 標準主体及び学際間標準化研究の力量を結集し強化することによって、標準化研究の活性化及び標準に対する認識拡散に寄与する。

2. 推進経過

10.4.15: 標準専門家の諮問会議で標準学会の設立の必要性を最初に論議し、創立準備委員会の構成及び委員長を選任

10.5.26: 標準学会の創立趣旨門の発送及び創立発起人の募集

10.6.24: 定款(案)及び事業計画書(案)の作成及び検討会議の開催

10.7.21: 学会の研究活動及び専門家参与の活性化のため、主題別の研究会構成に合意及び運営法案の論議

10.9.30: 創立発起人の募集及び名簿の作成(144名)

10.10.6: 標準学会の創立準備委員会を開催

10.10.12: **標準学会の創立総会及び国際標準学術シンポジウムを開催**

韓国標準学会事業内容

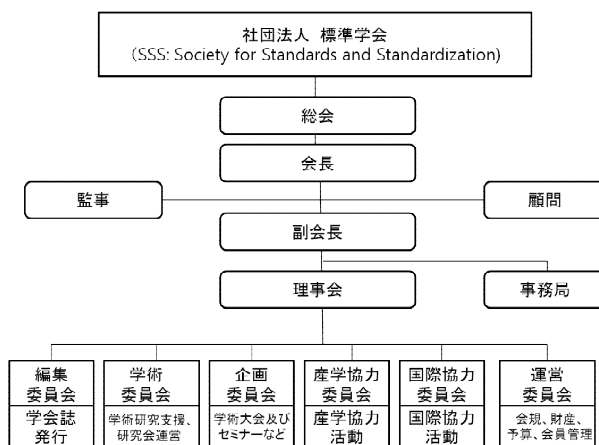
1 事業目標

- 標準学会の学問的主体性及び社会的価値の確立
- 標準及び標準化の学術的研究の活性化及び専門家ネットワークの構築
- 産業界及び消費者の参加誘導を通し、標準の社会的拡散に寄与

2 事業内容

- 学術誌「Journal of Standards and Standardization」の発刊(年2回、編集委員会)
- 標準学会定期学術発表会の開催(春・秋季の年2回、学術委員会及び企画委員会)
- 春季学術発表会:2011.6月 釜山(発表数100編予定)
- 韓中日の民・官の標準専門家が参加する東北アジア標準協力フォーラム(2011.6月、釜山)と並行開催し、東北アジアの標準専門家のネットワーク構築及び拡大
- 国内外動向及び新規情報提供のための情報誌発刊(年4回、学術委員会)
- 研究受託事業の遂行
- 会員募集及び会員情報の管理
- 安定的な学会財政の基盤助成
- 学会認知度の高揚
- その他の事業
- (予算規模は1千万～2千万円程度)

韓国標準学会組織図



韓国標準学会会員区分 1ウオン≒0.072円

区分	年会費(ウオン)	特典	
正会員	50,000	○ 学会誌の論文掲載及び学術大会の論文発表の権利	
学生会員	20,000	○ 国・英文の学会誌1部贈呈	
終身会員	500,000	○ 定期学術大会の招請	
		○ 定期学術大会の論文集(出席時)1部贈呈など	
図書館会員	200,000	○ 国・英文の学会誌1部贈呈	
		○ 定期学術大会及び分科学術大会の案内状の配布	
		○ 定期学術大会及び分科学術大会の論文集の無料配布	
		○ 学会発行資料の無料配布	
特別 会員	A	5,000,000	○ 国・英文の学会誌5部贈呈
			○ 定期学術大会に会員機関の代表5名招請
			○ 定期学術大会の論文資料集、CD5部贈呈
			○ 非定期セミナー、シンポジウムの際、会員機関の代表5名招請
	B	3,000,000	○ 学術大会のパンフレット製作の際、「協賛企業」として表記など
			○ 国・英文の学会誌3部贈呈
			○ 定期学術大会に会員機関の代表3名招請
			○ 定期学術大会の論文資料集、CD3部贈呈
			○ 非定期セミナー、シンポジウムの際、会員機関の代表3名招請
	C	2,000,000	○ 学術大会のパンフレット製作の際、「協賛企業」として表記など
			○ 国・英文の学会誌2部贈呈
			○ 定期学術大会に会員機関の代表2名招請
			○ 定期学術大会の論文資料集、CD2部贈呈
			○ 非定期セミナー、シンポジウムの際、会員機関の代表2名招請
	D	1,000,000	○ 学術大会のパンフレット製作の際、「協賛企業」として表記など
			○ 国・英文の学会誌1部贈呈
			○ 定期学術大会に会員機関の代表1名招請
			○ 定期学術大会の論文資料集、CD1部贈呈
			○ 非定期セミナー、シンポジウムの際、会員機関の代表1名招請
			○ 学術大会のパンフレット製作の際、「協賛企業」として表記など

韓国標準学会設立記念シンポジウム

2010 International Symposium on Standardization Research

Special Theme: How to Promote Research Activities on Standardization?

- In Celebration of the Foundation of Society for Standards and Standardization (SSS) -
09:30~17:00, Tuesday October 12, 2010 Diamond Hall 3F, Renaissance Seoul, Seoul, Korea

[Session I] Relationship between Standardization and Public Policy

[Session II] Relationship between Standardization and Business Strategy

[Session III] Promotion of Research and Research Society on Standardization:

Dr. Henk de Vries , Associate Professor, Rotterdam School of Management, Erasmus University, Netherlands

Dr. Manabu Eto , Professor, Institute of Innovation Research, Hitotsubashi University, Japan

Dr. Jinzo Fujino , Professor, Graduate School of Intellectual Property Studies, Tokyo University of Science, Japan

Dr. Mingshun Song , Vice President, College of Economy & Management, China Jiliang University, China

Dr. Ping Gao, Faculty, Institute for Development Policy and Management, The University of Manchester, UK/China

Dr. Heesang Lee, Professor, Department of Management of Technology, Sungkyunkwan University, Korea

Dr. Byung-Goo Kang , Professor, Department of Business Administration, Korea University, Korea

Dr. Hyoung-Jin Kim, Professor, Department of Forest Product, Kookmin University, Korea

Dr. Tae-kyung Sung , Professor, School of Management, Jeonju University, Korea

Dr. Heedong Yang , Professor, College of Business Administration, Ewha Womans University, Korea

Dr. Bumhan Kim , Professor, Department of E-Commerce, Pajai University, Korea

Mr. Donggeun Choi , Senior Researcher, International Standards Division, Korean Standards Association, Korea